

笑顔あふれる二十一世紀

中 一

私は、小学校四年生の時、学校の総合的な学習の時間の授業を利用して、近くにある特定施設養護盲老人ホームに行きました。当時、埼玉県に一つしかない施設であり、自分の家から近くでもあったことから、とてもわくわくしました。けれど、目の不自由な人がたくさんいると思うと緊張と不安でいっぱいになりました。

施設に着き、園長さんの話を聞きました。園長さんは、三歳の時にはしかにかかって失明したと話されていました。私の身の回りには、様々な色が存在しているのとショックを受けました。また、園長さんは、小さい頃から今に至るまで、数々の困難があり、とても苦労された方だとわかりました。目が不自由だからという理由で、周りの人からひどい扱いを受けたこともあったそうです。一体、その人達は、どんな思いで園長さんと接したのだろうかと考えると、ど

うして、なぜ、と思うばかりでした。

次に、目の不自由な方が文字を読むために大切な点字について学びました。点字は、六つのでこぼこを指の腹で、触れて読み取ります。私は、実際に点字の読み取りを体験しました。でも、何が打つてあるのか、全く分かりませんでした。しかし、園長さんは、すらすらとそれを読み取っていきました。この訪問を通して、私は思いました。障害のある人は、自分でできることは、自分でやりたいと望んでいるのではないかと。

障害のある人は、目が見えない、耳が聞こえないなど、大変なことがあると思います。しかし、得意なこと、できることをたくさんもっている、この訪問を通じて思いました。歌が上手な人、絵を描くのが得意な人、笑顔が素敵なお人など、みんながそれぞれ、輝きをもっていると思います。園長さんもたくさん苦労を知っているからこそ、今では、園長として活躍をさせているのです。これから、温かく見守る目と「苦手かな」、「大変かな」という時には、優し

く差し伸べる手で、全ての人達に接していききたいです。

人権とは、「全ての人々が生命と自由を確保され、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは、「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらもつ権利」のことだと思います。それらは、どんな人でも、みんなが平等にもっています。だから、誰かが苦しんで、それを見過ごすことは、絶対にしません。この人権作文を書いたことで、私は、小学生の時の考え方から、さらに大切な思いへと変えることができました。人は、差別や人権侵害など、数々の過ちを犯してきました。しかし、今は、二十一世紀。これからは、私達が先頭に立って、協力し合って、平和な世の中を創っていききたいです。そして、人々の笑顔があふれ、互いを思いやる力を誰もがもっている、そんな素敵な二十一世紀になるように、自分から、その力を発信していききたいです。

